

キタダケソウ保護増殖事業計画

平成7年7月17日

環境庁

キタダケソウ保護増殖事業計画

環 境 庁

第 1 事業の目標

キタダケソウは、南アルプス北岳の山頂の限られた範囲にのみ生育する多年生の草本植物であるが、生育株数の増減等の生育状況について詳細には把握されていない。また、登山道が生育地に近接しているため、登山者に踏みつけられたり、園芸価値が高いことによる盗掘の事例がみられるなど、本種の個体数の減少をもたらすおそれのある要因が存在している。

本事業は、北岳山頂部における本種の生育状況の把握と監視に努めつつ、登山者の踏みつけによる影響や盗掘による被害等がみられる場合には、生育環境の改善・回復を図るとともに、生育地への立入りや盗掘の防止策の強化等を行うことにより、本種が自然状態で安定的に存続できる状態になることを目標とする。

第 2 事業の区域

山梨県南アルプス北岳山頂部

第 3 事業の内容

1 生育状況の把握・モニタリング

本事業の適切かつ効果的な実施のため、以下の調査を行う。

(1) 生育状況の把握・モニタリング

生育地点、生育株数の現状及び増減等の本種の野外個体群の生育状況に関する情報の収集及び定期的なモニタリングを行う。

(2) 生態特性の把握

野生下での繁殖様式、実生の定着環境等の本種の生態特性の把握を目的とした調査を行う。

(3) 生育の圧迫要因及びその影響の把握・モニタリング

盗掘、登山者の生育地への立入り、生育地を横断する登山ルートによる影響、生育地における土砂の崩壊、生育地への植物の持ち込み等個体群の維持に影響を及ぼすおそれのある要因及びその影響の現状把握並びにモニタリングを行う。

2 生育地における生育環境の改善・回復

本種の自然状態での安定した存続のためには、周辺の植生や地質など本種を取り巻く生態系全体を良好な状態に保つことが必要である。

このため、上記 1 の現状把握やモニタリングの結果、本種の生育環境が悪化し、個体数の減少や裸地化等の影響が見られる場合には、その原因を把握するととも

に、本種の生態特性を十分に踏まえて、その効果的な実施方法を検討し、本種の生育・繁殖に適した環境の改善・回復を図る。

3 生育地への登山者の立入りや盗掘の防止

登山ルート周辺において監視を強化し、保護柵や制札等を整備する等により、北岳キタダケソウ生育地保護区の立入り制限措置の適切な実施を図る。なお、上記1の現状把握やモニタリングの結果、生育地への登山者の立入りや盗掘による影響がみられる場合には、必要に応じ、現在利用されている登山ルートの変更を行う。

4 普及啓発の推進

本種の保護増殖事業を実効あるものとするためには、関係行政機関、生育地周辺の山小屋、北岳への登山者をはじめとする国民の理解と協力が不可欠である。

このため、本種の生育状況及び保護の必要性、保護増殖事業の実施状況等に関する普及啓発を推進し、本種の保護に関する配慮と協力を呼び掛けることとする。また、生育地への植物の持込み等、本種の生育に支障を及ぼす行為の防止について、理解と協力を呼び掛ける。

5 効果的な事業の推進のための連携の確保

本事業の実施に当たっては、事業にかかわる国、山梨県及び芦安村の各行政機関、本種の生態等に関する研究者、登山関係者等の関係者間の連携を図り、効果的に事業が推進されるよう努める。